

北日本新聞

庄川上流の産廃処分場計画

環境アセスきよう着手

アルト



庄川上流域に当たる岐阜県高山市庄川町六蔵地区で産業廃棄物最終処分場の建設を計画するリサイクル・廃棄物回収運搬のアルト(富山市)は11日から、計

画の環境影響評価(アセスメント)に着手する。事業内容及び影響を予測、評価するための調査で、調査期間は2年間。同社は「環

境保全の観点から適切な配慮をし、より良い事業内容をつくる」としている。計画では10万6千平方メートルの敷地に容量243万立方メートルの管理型処分場を整備。廃棄物に含まれる水分や雨水などの浸出水は全て処理施設に集めて基準を満たす水に処理してから庄川支流の六蔵川に放出する。調査は「大気質」「水質

・底質・地下水」「土壌」「騒音・振動」「地盤」など11項目にわたって実施。結果は公表され、地域住民への説明会や住民らが意見を表明する機会が設けられることになっている。調査方法について事前協議した岐阜県の審査会は、計画地は自然豊かな森林域で付近に住居や水道水源があることから環境負荷低減に最大限取り組みことや積雪、集中豪雨などへの対策を明らかにすることなどを求めている。同社の坂下明義社長は「審査会や住民の意見に十分配慮して調査作業を進めたい」と述べた。

この計画を巡っては富山県西部5市の農業・漁業団体や自治会組織などでつくる対策協議会が、地震や豪雨など万一の際に有害な物質が庄川に流れ出て県西部の農水産物や水道水の安全性を損なう可能性がある

と訴えている。高山市議会は昨年12月、地元や下流域の富山県の関係者間で自然環境や水質保全への不安が広がっているなどとし、設置を許可しないよう要望する意見書を岐阜県に提出した。